

平成30年度第1回財政局技術審査会議事録

1 日 時： 平成30年7月19日（木） 午後3時30分～午後4時30分

2 場 所： 工事入札室

3 出席者

(1) 委員

森委員長（財政局長）、佐久間都市局長、宮本資産経営部長、浜田建築部長

(2) 事務局

布施新庁舎整備課長、前田新庁舎整備課長補佐、
久保田整備班主査、清水調整班主査、大熊主任主事

4 議 題

(1) 総合評価落札方式によることの適否

(2) 落札者決定基準について

5 議事の概要

(1) 総合評価落札方式によることの適否

技術的な工夫の余地が特に大きく、入札参加者が提示する総合的なコスト縮減、性能・機能の向上等の提案と当該入札参加者の入札価格を一体として評価することが妥当と認められることを説明し、了承された。

(2) 落札者決定基準について

落札者の決定方法、評価項目及び配点について説明をした。

6 会議経過

(1) 総合評価落札方式によることの適否

○布施新庁舎整備課長 (総合評価落札方式とすることについて説明)

質疑・応答

なし

(2) 落札者決定基準について

○布施新庁舎整備課長 (落札者の決定方法、評価項目及び配点について説明)

質疑・応答

【評価方法について】

○佐久間委員 例えば、免震性能の優劣や工期短縮の実現、要求水準を上回る提案への段階分け評価は、非常に難しいのではないか。

○布施新庁舎整備課長 検討委員会は各分野の専門家で構成されているので、専門家同士の議論のうえ、合議体として結論を出していただきたいと考えている。

○森委員 新技術などの実現性は、採用実績を提示させながら判断することが考えられる。また、実現性の低い提案を出すことは、会社として今後の信用性に関わることからリスクが高いと考えてくるのではないか。

- 宮本委員 検討委員会の委員からの意見で、技術提案に具体的な数値を記載させるというのは、定量的に判断することを視野にいれているのか。
- 布施新庁舎整備課長 ランニングコストの削減などについて、記載された数値からその効果や実現性を判断することが考えられる。

【要求水準について】

- 森委員 提案内容が要求水準に達しているかどうかはどうやって判断するのか。
- 布施新庁舎整備課長 要求水準に関する誓約書を提出させるが、審議前に事務局による提案書類の確認を行い、要求水準を満たしていない可能性があることを明示して附属機関に審議をお願いすることになると想っている。
- 佐久間委員 スーパーゼネコンクラスなら、要求水準は最低限、出来ないということはまずないであろうから、そこは信頼して良いと思う。やはり要求水準以上の差をどう見極めるのかが難しい。また、全く新しい素材や技術というより、既存の素材や技術の組み合わせによる「マッチングの妙」が多いのだろうと思う。
- 宮本委員 検討委員会の委員から、各者の提案にそれほど優劣はつかないだろうという意見はあった。

【審査講評について】

- 森委員 各者の提案に対して、X社がA評価、Y社がB評価だという理由や考え方を説明できるか。
- 布施新庁舎整備課長 検討委員会による審査講評で、提案の中で評価されたポイントなどを取りまとめる予定だが、対外的な説明をふまえ内容を作り込む必要はあると認識している。
- 佐久間委員 次回以降、具体的な内容の評価の段階に入るので、審査講評まで検討委員会でどのような意見、議論があったか把握しておきたい。
- 布施新庁舎整備課長 次回からは資料に反映した意見だけでなく、議事の概要版などを用意させていただく。

【全体】

- 森委員長 説明された内容を了承する。入札公告に向け書類の精度を高めるように。
- 布施新庁舎整備課長 承知した。

（3）その他

- 布施新庁舎整備課長 （第2回技術審査会はVE提案の採否について予定していることを説明）

問い合わせ先 千葉市財政局資産経営部新庁舎整備課
TEL 043（245）5044